
「正しいことなんて求めてないよ」 in グラインドハウス

ぱぴぷぺ河野

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

「正しいことなんて求めてないよ」 in グラインドハウス

【Nコード】

N7566L

【作者名】

ぱぴぷぺ河野

【あらすじ】

グラインドハウスとは、B級映画を複数で上映する映画館のこと。「inグラインドハウス」では、作者自らがB級を楽しむ為に書いてます。不足茶野先生↑（ここが本家）とこはんライス先生に触発されて書いてみました。グロテスクな表現が苦手な方は回れ右でお願いします。

国に存在する政治家という政治家が、突然ごつそりと宇宙人に拉致された。

理由はとある政治家の広い邸宅の敷地に宇宙人を100匹奴隷として飼っていたのが、銀河人権侵害撲滅委員会にバレた為だ。

「我々銀河系で暮らす宇宙人だって立派に生物なんだ！差別は許さんぞ！」

「体の構造は違うがちゃんと生きて生活してんだよ」

「。ЕОЖИП（訳、地球のコーラってめっちゃうまいよね）」

「キシャー……ッッ！！もう面倒くせーから滅ぼしちまおうぜ、あんな惑星^{ほし}」

「滅ぼすのはダメよ！ 悪いのは一部の人間なんだから。一部の人間……人間の一部分……ああ、お腹空いた。内臓……食べたい（じゅる……）」

拉致された政治家達がどうなってしまったのかは、……謎である。

そんなことが起こり、法治国家が崩壊して放置国家になった。理由は簡単である。

政治家になれば宇宙人に拉致されてキューインとか、ゴリゴリツとか、ザシュツツとかザクザクツとか、ワァーイ！とかされてしまうとマスコミが騒いだからだ。

そんなリスクを背負うなんてまっぴらごめんだね。自分さえ良ければ万々歳と思うのが最早世の中の常識なのである。むしろ腐った政治家がいなくなり、よかったよかったと民衆からは歓喜の拍手が沸き起こった。

放置国家になり尋常じゃなく怯えたのは、謂わずと知れた金儲けに狂い、私腹を肥やした金持ち連中である。

法律という武装をいきなり解除されて、自らの私財を、命をどう守るのがわからなくて、ただひたすら自宅の地下に作った核シェルターに引きこもり、ガタガタと震える毎日を過ごしていた。

その震えで直下型の地震が起きた。建物が倒壊し、出入口が埋もれて永遠に閉じ込められた末、自らの糞尿に塗れた核シェルターで狂いながら餓死してミイラになった。

警察は国の法律が放置され守る役目を失い失業した。善良で志高き警官はホームレスになりながらも民衆の安全を守ることをやめなかった。そんな善良な警官に市民は「死ねクソポリ！」と石を投げ、唾を吐きかけた。

利権を貪って腐敗していた警官はマフィアになり下がり、善良な警官とドンパチを繰返した。

そして善良な警官は全て蜂の巣にされて死に絶えた。

マフィアと化した警官に畏れを抱き、我が身の安全を守りたいと民衆は、各自衛隊基地に雪崩こみ自衛官に国民を助けろと要請した。しかし、自衛官は欠伸をひとつしてこう言い放った。

「都合のいい時だけ私達をあてにしないで欲しいね。つーか、あんたら戦争反対なんだろ？自衛隊なんていらなくて言うてたじゃん」

「何だと！お前らは国民を守る為に俺達の税金で給料貰って今まで遊んでたんだから！こんな時くらい——」

自衛官は笑って手榴弾のピンを抜き、民衆にポイと投げ捨てた。

ドカーーン！！！！

爆音と共に民衆が吹き飛び、赤い肉片が飛び散った。

「あつはつは。すげーっ！ 面白いなっ！」

自衛官は次々に手榴弾を投げて逃げ惑う民衆を黒焦げた赤い残骸にしていた。

露出狂はこれみよがしと路上で全裸になり、楽しそうに自慰を始めた。

民衆はそれを見て狂ったように賛辞の黄色い声援を送り、触発されるように公開乱交セックスを始めた。

マスコミは面白いとこぞってそれを報道した。

高見の見物人であった品格重視をアピールするコメンテーターは、放置国家を嘆いたコメントをした。

「世の中狂ってますね」

そうため息をついたその時、スタジオに乱入してきたちびっこ売春婦達に衣服を剥ぎ取られ、晒し者にされ、ナイフで滅多刺しにされた。

ちびっこ売春婦は口々に笑う。

「ようやくキチガイジジイを始末できたね」

「ホント、ホント。よかったねー」

「これでもうセックス奴隷の生活から解放されるね」 そんなちびっこ売春婦達は皆性病にかかり治療の仕方もわからず、医者にもいかず腐つてのたれ死んだ。

教師は皆こぞって聖職者を愚弄した生徒を強姦し、生徒の親を殴殺していった。

「言葉の暴力には非道なる暴力を行使します。体罰ってホント最高っ！」

そんな教師達は狂ったようにげらげら笑って泣きながら駆け出し、

校舎の天辺からアスファルトの駐車場へ落下して潰れたトマトになっ
ていった。

善人面した人間は、裏表のない性悪な人間に顔を日本刀で斬られ
て顔ナシになった。

博識ぶった人間は白痴に斧で頭を割られて脳を引きずり出され、
頭が空っぽになって笑われた。

大人の優しさを逆手に取りバカにして我儘放題で笑っていた子供
は、腕を切り落とされて崖から投げ捨てられた。

善良な医者は過酷な労働に疲弊して狂乱し、メスで自らの首を掻
き斬った。

性悪な医者は運ばれてきた瀕死の患者をバラバラに解体して歓喜
の咆哮を手術室に轟かせた。

そんな医者を見て、看護師はカラカラと奇怪な笑い声を上げて、空
の注射器を自らの心臓に刺して死んだ。

狂乱と化した国民に、国に終止符を打とうと頭のイカれた自称世
界のリーダーが砲撃を開始したが、自国の白痴の軍人が誤爆して別
の国に核ミサイルを投下した。

宇宙人はモニターを見て両手を叩きげらげら笑っていた。

「カッテニ、ホロンデクヨネ。アノホシ（笑）」

「オモシロイネ（笑）」

「アタマワルイヨネ（笑）」

「チヨウウケルヨネ（笑）」

「ホウリツツテサ、ベツニセイジカガイナクナツタクライデ、ホウカイスルモンナノカネエ? (笑)」

「モトカラ、イカレテタンジャネ? アノ、ホシノニンゲンデ (笑)」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7566/>

「正しいことなんて求めてないよ」 in グラインドハウス

2010年10月11日11時53分発行